HIMAWARI Women & Men Information
女と男の情報紙

ひまわり

Vol.38
2024.9.1

特集

男女共同参画社会の実現に向けて

大きな災害がない熊谷において、
いつもどおりの日常を送ることができている今だからこそ
考えておきたい、有事における男女共同参画の視点



「光かがやく」 千田 完治さん（肥塚）の作品

第45回フォーラムくまがや2024のお知らせ



落合 恵子 氏

1945年栃木県生まれ。明治大学英米文学科卒業後、株式会社文化放送に入社。アナウンサーを経て作家活動に入る。家族の問題、社会的な問題、教育問題、環境問題などを、ただ単に批判するだけでなく、誰にとっても、わかりやすく考えられる「社会に共通な問題」にしていくことに努め、小説の形で表現し続ける。

また、人権問題に取り組んでいる海外の作家やジャーナリストとの交流も多く、女性問題や子どもの人権問題を世界に共通したテーマとしての視点から講演などの活動を積極的に展開。受賞歴に「産経児童出版文化賞大賞」ほか、著書に「わたしたち（河出書房新社）」ほか多数。

●講演 落合 恵子 氏（作家/クレヨンハウス主宰）

『自分を生きる
～それぞれが、それぞれの
「色」に輝いて～』

●オープニングステージ
熊谷東中学校 合唱部



熊谷東中学校 合唱部

- 令和5年度NHK全国学校音楽コンクール埼玉県大会本選出場
- 令和5年度埼玉県合唱コンクール銀賞
- 熊谷市民音楽祭や熊谷ミュージックフェスティバルなど様々な演奏会に出演している。

●第19回熊谷市男女共同参画推進表彰

11月23日(土) 午後1時から(入場無料)
熊谷市立文化センター文化会館(熊谷市桜木町二丁目33番地2)
※手話通訳あり ※託児あり（2歳以上の未就学児/要予約） ※未就学児の入場不可

【入場申込み・お問合せ先】
熊谷市男女共同参画推進センター「ハートピア」
下記のいずれかの方法でお申し込みください。
①申込みフォーム:右記二次元コードから
②電話:048-599-0011 ③FAX:048-599-0012
※申込者が500人（定員）になり次第、締め切ります。

共催：熊谷市・くまがや共同参画を進める会

男女共同参画の視点からの防災・減災

～大きな災害がない熊谷において、いつもどおりの日常を送ることができている
今だからこそ考えておきたい、有事における男女共同参画の視点～

災害などの危機的な出来事は人々に様々な影響を及ぼします。巻き込まれた人々は家を失ったり、大切な人を失ったり、家族やコミュニティから引き離され、つらい出来事を目の当たりにすることもあるかもしれません。

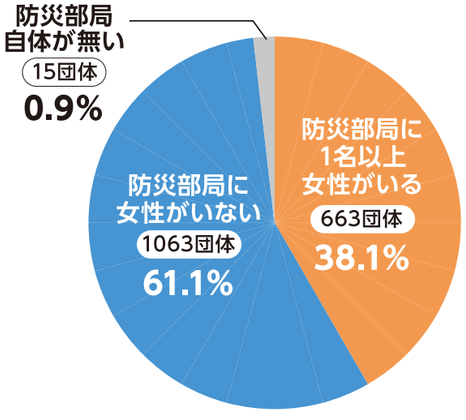
危機的な状況の直後でまず必要なことは、安全と安心感の確保です。そして、それぞれの尊厳や権利を尊重することが大切です。特にリスクの高い **1．子ども(思春期を含む)　2．健康上の問題や、障害のある人　3．差別や暴力を受ける恐れがある人たち**へは、十分な配慮と注意が必要です。今回は、年齢や性別、社会的マイノリティまたは文化的背景等にかかわりなく、全ての人々に必要な支援が届くように、避難所における女性の役割について考えてみたいと思います。

避難生活時の具体的な問題点



災害時の意思決定の現場で女性の声が不足しています





左の円グラフは市町村の防災部局のうち女性職員がいない割合です。全体の約61%において女性職員が在籍していないということになります。災害時に女性の声を取り入れることは難しいことが想像できます。

有事の際に意思決定の場で、女性の意見を反映させるには、周囲の理解や合意が必要であり、そのために女性側からの働きかけも重要です。女性の防災リーダー研修への参加や地域の自治会活動、自主防災組織への参画が求められます。



出典:内閣府ガイドラインに基づく地方公共団体の取組状況調査(令和4年)

～避難時に女性が関わることで みんなが相談しやすくなります～



災害時にはジェンダーの問題、例えば「家事や育児は女性がするべきだ」などの無意識の思い込みや偏見などが顕在化しやすくなります。避難所での生活をより良くするためには、子ども、高齢者、障害のある人や社会的マイノリティ等、多様な人々からの意見を踏まえた運営が大切です。

実際に宮城県のある避難所では、避難者が共同で使用する機器を管理していた女性5・6人に、リーダーとして相談のとりまとめを依頼しました。女性たちが中心になることで対応しやすくなり、女性、子ども、高齢者も相談しやすくなったそうです。性別によるニーズの違いに配慮することや、ジェンダーによる負担の偏りをなくすために、女性リーダーの役割が重要視されています。





災害時はその場にいる全ての人が傷ついています。このため、「こころ」への配慮が重要です。危機的な状況を体験すると、とても不安になったり、動揺したりします。孤独感や無力感を感じることもあります。

また、避難所では、限られた空間の中に多くの人が暮らすため、衛生面やプライバシーの問題から、多くの人がストレスを感じ、心身の健康を害し、日常生活に支障が生じます。

「こころ」を大切に扱うために、お互いへの配慮と気遣いで支え合うことが大切です。

「こころ」は専門家だけが扱うものではありません。平時から自分や相手、出来事に対して押しつけや決めつけをせず、一人ひとりの考えを尊重し、意識することで、有事への準備となります。男女共同参画の視点を踏まえて、有事に女性やリスクの高い方の意見を取り入れられるよう防災・減災について考える、そんな機会が得られることが望ましいのではないでしょうか。

厚生労働省のホームページでは、災害時の精神保健対策として、「心理的応急処置(サイコロジカル・ファーストエイド：PFA)フィールドガイド」を公開しています。

厚労省　サイコロジカル・ファーストエイド
https://www.mhlw.go.jp/content/000805675.pdf

熊谷市では
女性の視点を
取り入れた
防災マニュアルの
「くまぼう」という
防災ハンドブックが
発行されています。



輝いてます！ 街で出会ったいきいきさんをご紹介します

「浴衣でうちわ祭を盛り上げよう」



ゆかた
浴衣お直し隊

熊谷の一大イベント、関東一の祇園と言われる「うちわ祭」が今年も盛大に開催されました。そして、お祭りと言えば浴衣を着て歩きたくなりませんか？中・高生が一生懸命自分で着付けた姿を見て「ちょっと直して素敵にしてあげたい」「浴衣を夏の思い出にしてあげたい」そんな思いを持った着物好きの面々が集まり、「浴衣お直し隊」の活動が始まりました。きっかけは、市内で呉服店を営む小杉さんと顧客の水野さんの何気無い雑談から生まれました。「お祭りにくる浴衣の方たち、ちょっと直せばもっと素敵になるはず！ならば自分たちでお直しをやってみようか！」市内外で、着物で行けるイベントや食事会も企画している小杉さん。イベント参加者の着物愛好家やＳＮＳの繋がりで、ボランティアメンバーを集めました。隊の活動は「うちわ祭」の後半２日間、17号国道に面した事務所の２階を借りて場所を確保しました。『浴衣お直し隊』のタスキをかけて、道を通る浴衣姿の方に声をかける係と、希望する方の着付けを直す係、全員で連携プレーをこなしていきます。参加したボランティアメンバーからは「やってみてわかる難しさは、面白さでもあります。あらためて自分の着物愛も目覚めました！」との声も。主催の小杉さんには「浴衣をきっかけに少しでも着物に目を向けてもらえたら嬉しいです」との思いもあります。２０１１年に始まり、今年で12回目になった浴衣お直し隊も、記録的な暑さの中、無事に任務完了！華やかに変身した浴衣姿が、うちわ祭をさらに盛り上げてくれたことでしょう。（※浴衣の着付けの予約はありません）







ひとりで悩んでいるあなた、一度相談してみませんか？

配偶者や恋人など親密な関係にある人からの暴力(DV)に悩んでいる方、自分が我慢すればと思わずに、相談してください。どんな小さなことでも、相談員がお聴きし、一緒に考えます。電話相談は匿名でもお受けしていますので、まずはお電話ください。

詳しくはこちら

◆ハートピア相談室　☎048-599-0015

相談名	相談日	時間
電話相談・面接相談（予約不要）	月～金曜日、第1・第3土曜日（祝日、年末年始を除く）	9:00～17:15
弁護士による相談（要予約）	隔月1回（偶数月）	10:00～11:30
臨床心理士による相談（要予約）	毎月1回　偶数月…第4金曜日 奇数月…第4水曜日 （祝日の場合は変更）	9:00～16:00
保健師による相談（要予約）	毎月2回　第2・第3水曜日（祝日を除く）	13:30～15:30

（各相談とも、無料・秘密厳守）

● 女性人材リスト登載候補者募集 ●

熊谷市では、政策・方針決定過程への女性の登用を図るため、熊谷市女性人材リストを作成し、審議会等の委員や各種団体・地域活動等の協力者の選定の際に活用しています。あなたの経験・資格を市政に活かしてみませんか？

(1)特定の分野の有識者及び有資格者等
（例：弁護士、税理士、社会保険労務士、医師、看護師、社会福祉士、介護福祉士、建築士、その他特殊技術・技能保有者）

(2)各種団体及び職場等で社会活動を行っている方
（例：企業、各種団体の代表者、ボランティア活動等を行っている方）

(3)市や地域の発展に熱意をもって貢献できる方

(4)応募締切　10月31日(木)

【対象者】熊谷市内及び近隣の市町村に在住又は在勤する18歳以上の女性で次のいずれかに該当する方

【問い合わせ】
〒360-0037
熊谷市筑波三丁目202番地ティアラ21（4階）
熊谷市男女共同参画推進センター「ハートピア」
TEL　048-599-0011

「ひまわり」編集員公募のお知らせ

本紙「女（ひと）と男（ひと）の情報紙ひまわり」の編集員を募集します。

募集人員　2人

応募資格　市内在住の18歳以上の方で、男女共同参画に関心があり、左記の活動ができる方

活動内容　①編集員会議（毎号3回程度・平日2時間程度）②取材活動（随時）③原稿の作成

委嘱期間　2年間

応募方法　応募動機と男女共同参画の推進に向けた考えを、800字程度にまとめ、住所・氏名・生年月日・職業・電話番号を明記し、9月30日(月)までに熊谷市男女共同参画推進センター「ハートピア」へ直接ご提出ください。

編集後記

この場をお借りして、令和6年能登半島地震により犠牲となられた方々のご冥福をお祈りするとともに被災されたすべての皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

先日、私の住む自治会で開催された「防災運動会」に参加しました。防災訓練と運動会をミックスし、住民たちの交流と防災意識が深まるイベントとなりました。会の途中で、若い女性から「授乳できるところはありますか」と本部に申し出がありました。ハッとしました。準備していなかったのです。その後会場の小学校のご協力で、保健室を授乳室として開放することになりました。多様な性、多様な年代の方が防災活動に参加してくださると、気付きがあり、ニーズを共有できます。

今年、くまがや共同参画を進める会が、女性の視点を活かした防災ハンドブック「くまぼう」を作成し各家庭に配布しました。少しずつですが、女性の視点での防災活動も広がっています。

9月1日は防災の日、日頃の備えを見直すとともに、男女共同参画の視点からの防災に関心を持っていただけたら幸いです。（秋元）

〈編集員〉
秋元　留美子　井上　紀子　奥富　康雅
坂東　輝美　吉田　知重子

■発行日　令和6年9月1日(年2回発行)　■発行　熊谷市　■編集　男女共同参画室(ハートピア内)・「ひまわり」編集員会
「ひまわり」Vol.38は、71,500部作成し、印刷・製本にかかる市の負担は、1部当たり7円です。

PRINTED WITH SOY INK
環境にやさしい大豆油インキ